

○普及上参考となる技術

[タイトル] キャベツにおける畝立て・定植時の効果的な雑草防除体系

[要約] 従来慣行のゴーゴーサン乳剤は、クレマート乳剤で代替することができる。アグロマックス水和剤はラッソー乳剤と併用することで効果的な防除が可能である。

[キーワード] キャベツ 雑草防除

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・園芸研究所・野菜課

[連絡先] 電話 0763-32-2259

[背景・ねらい]

県内の業務・加工用キャベツ栽培における畝立て後定植前の雑草防除では従来ゴーゴーサン乳剤を使用していたが、現在、メーカーからの使用上の注意としてセル成型苗には使用を避けることとされている。そこで、県内水田転換畑で一般的な砂壤土ほ場において、畝立て・定植時の効果的な雑草防除体系を検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 2019、2020 年ともにクレマート乳剤－フィールドスターP乳剤体系の防除効果はゴーゴーサン乳剤－フィールドスターP乳剤体系と同等以上であり（図 1、2）、イネ科およびカヤツリグサ科の抑草効果が高い（表 1、2）。
- 2 アグロマックス水和剤は、単剤使用では防除効果が低い（図 1）が、ラッソー乳剤と併用することで防除効果を高めることができる（図 2）。
- 3 クレマート乳剤－フィールドスターP乳剤およびアグロマックス水和剤－ラッソー乳剤体系とも結球重には影響しない（図 3、4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 園芸研究所内の砂壤土ほ場における試験である。
- 2 キャベツ品種‘おきな’（2019 年）および‘TCA-542’（2020 年）を用いた試験である。
- 3 薬剤の使用量/希釈水量は、ゴーゴーサン乳剤・クレマート乳剤（400 mL/150 L）、フィールドスターP乳剤（50 mL/100 L）アグロマックス水和剤（300 g/100 L）、ラッソー乳剤（150 mL/100 L）の結果である。
- 3 ほ場の雑草種を考慮した上で、ほ場や薬剤を選定する。
- 4 散布の際は、農薬安全使用基準および製造元が公表する使用上の注意を遵守する。

[具体的データ]

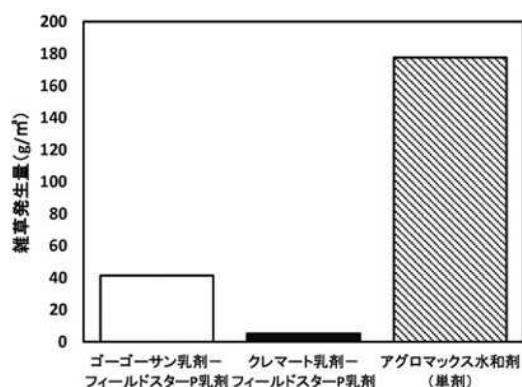


図1 各防除体系における雑草防除効果(2019年)
※除草剤使用時期 畝立て後:ゴーゴーサン乳剤・クレマート乳剤
定植後6日後:フィールドスターP乳剤・アグロマックス水和剤

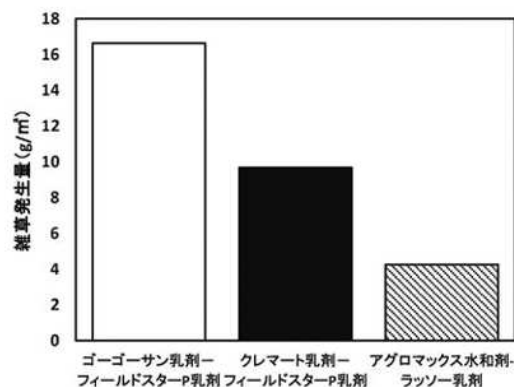


図2 各防除体系における雑草防除効果(2020年)
※除草剤使用時期 畝立て後:ゴーゴーサン乳剤・クレマート乳剤
定植後2日後:フィールドスターP乳剤・プロピザミド水和剤
定植後5日後:ラッソー乳剤

表1 各除草剤処理における雑草の構成 (g/m²) (2019年)

	イネ科	カヤツリグサ科	タデ科	キク科	アブラナ科	スベリヒユ科	その他
ゴーゴーサン乳剤-フィールドスターP乳剤	9.2	0.9	6.2	10.8	1.9	6.0	6.4
クレマート乳剤-フィールドスターP乳剤	0.5	0.0	0.5	1.8	0.6	0.8	0.9
アグロマックス水和剤(単剤)	87.8	9.4	0.0	58.7	1.4	7.2	12.9

表2 各除草剤処理における雑草の構成 (g/m²) (2020年)

	イネ科	カヤツリグサ科	タデ科	キク科	アブラナ科	カタバミ科	その他
ゴーゴーサン乳剤-フィールドスターP乳剤	N.A.	0.02	N.A.	8.90	7.58	0.08	0.04
クレマート乳剤-フィールドスターP乳剤	N.A.	N.A.	5.56	0.08	4.00	0.04	N.A.
アグロマックス水和剤-ラッソー乳剤	0.08	0.00	0.05	0.28	3.80	0.01	0.04

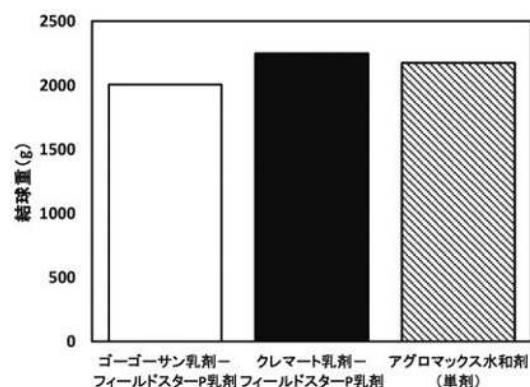


図3 各防除体系による収量性への影響(2019年)
※定植後84日後調査

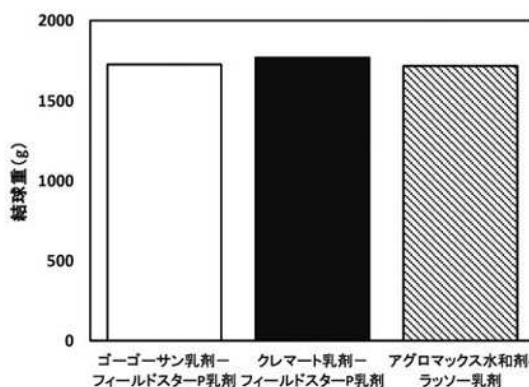


図4 各防除体系による収量性への影響(2020年)
※定植後75日後調査

[その他]

研究課題名: 加工用キャベツ等の安定生産技術開発
予算区分: 県単(革新)
研究期間: 2019~2020年度
研究担当者: 有馬秀和
発表論文等: なし